

2泊3日の化学療法を受けられる患者さんへ

ID : 患者氏名 :

【患者さん用クリニカルパス】

	入院当日	化学療法当日	退院日
	月 日	月 日	月 日
目標	治療の経過が分かる	予定どおりに治療が終了する 症状出現時は適切な対処が受けられる	退院指導の内容が分かる
説明・指導	入院・治療について説明します。 予測される副作用および予防法・出現時の対処方法について説明があります。	点滴中、針の入っているところが痛くなったり、 腫れたり、重苦しくなったら、すぐに教えて下さい。 ひらつき・目まい等があるときは必ず看護師を呼んでください。 副作用症状がひどいときは、遠慮せずに話してください。 	医師の診察後退院となります。(午前中) 退院指導を行います。(生活指導や次回外来再診日の連絡) 次回から外来化学療法を行う場合は、外来化学療法室のご案内・説明を行います。
治療 処置 点滴		9~10時 点滴の針を入れ準備します。10時頃から点滴を始めます。 抗癌剤の主な副作用 発症時期による症状と対処方法について 【点滴開始から1週間】 投与時過敏症状 投与中あるいは投与数時間後にかゆみ、息が苦しい、発熱、汗が出るなど様々な症状が出た場合、すぐに教えてください。 はき気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状 吐き気止めのお薬を使用します。 関節・筋肉痛 漢方や痛み止めの内服を使用することがあります。 手指のしびれ 手足のビリビリとしたしびれ、感覚が鈍くなるなどの症状が起こることがあります。 白血球減少、好中球減少 G-CSF製剤(白血球を増やす薬)を注射をすることがあります。 【その他の副作用】 動悸・息切れ 下痢 口内炎 疲れやすい 強い腹痛 味覚異常 むくみ 血管痛	
内服	現在飲んでいる内服薬の確認をします。 内服薬は基本的に継続内服とします。		必要に応じて、吐き気止めや便秘薬の処方を行います。 その他、希望がある際は、お申し出ください。
検査	次の検査をすることがあります。 血液検査、尿検査、胸のレントゲン 心電図検査 	6時 体温と血圧を測ります。 	外来で採血をして、骨髄抑制(白血球減少、貧血、血小板減少)の有無を確認します。 白血球減少が認められた場合は、次回の化学療法を延期し、G-CSF製剤(白血球を増加させる薬)を注射します。 うがい、手洗いをし、マスクをつけ感染予防をしてください。
食事	基礎疾患(糖尿病・高血圧)に応じて、 治療食をお出しすることもあります。	食欲に応じて食事変更が出来ますので、医師・看護師にお話ください。 	化学療法によって、食事の制限はありません。 通常通りに摂取してください。
生活・行動	特に制限はありません。	特に行動制限はありません。 	特に行動制限はありません。
清潔	シャワー浴ができます。	点滴治療中以外は、シャワー浴ができます。 点滴の針が濡れないように出来ますのでシャワー浴のときはお知らせください。	ご自宅でも入浴、またはシャワー浴ができます。
その他	入院後に熱が出た場合は、化学療法を延期し一度退院していただくこともあります。 入院に、付き添いは必要ありません。	抗癌剤点滴開始初期(特に10分以内)に発疹や顔が赤くなっているなどのアレルギー症状が現れることがあります。 ほとんどは一時的なものでおさまりますが、症状が出現した場合は申し出てください。	退院後、外来で採血検査を行います。必ず受診しましょう。 38.5°C以上の発熱があった場合には、受診しましょう。 その他気になることがございましたら、お電話ください。

注) 予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。